

グローブライド株式会社

証券コード：7990

2025年3月期 第2四半期決算 説明資料

2024年11月27日



GLOBERIDE

A Lifetime Sports Company

2025年3月期 第2四半期決算の概要

2025年3月期 第2四半期連結決算ハイライト ①前期比

GLOBERIDE

A Lifetime Sports Company

(百万円)

	2023/9	2024/9	増減額	増減率
売上高	67,876	65,253	△2,622	△3.9%
売上総利益	25,260	24,762	△498	△2.0%
売上総利益率	37.2%	37.9%	+0.7 point	—
営業利益	6,522	5,011	△1,511	△23.2%
営業利益率	9.6%	7.7%	△1.9 point	—
経常利益	7,198	4,840	△2,358	△32.8%
経常利益率	10.6%	7.4%	△3.2 point	—
<small>親会社株主に 帰属する</small> 中間純利益	5,099	3,327	△1,771	△34.8%
中間純利益率	7.5%	5.1%	△2.4 point	—

- アウトドア・スポーツ・レジャー業界の市況は、余暇の過ごし方が旅行や買い物など他のスポーツ・レジャーへ分散化、多様化し、また、物価高による家計への負担増の影響を受け、停滞感が見られる状況。
- 当社グループにおいては、需要減速や市場在庫調整等の影響を受け減収となった。
- 利益面においては、減収による粗利益の減少や人件費等の費用の増加等により減益となった。

2025年3月期 第2四半期連結決算ハイライト ②予想比

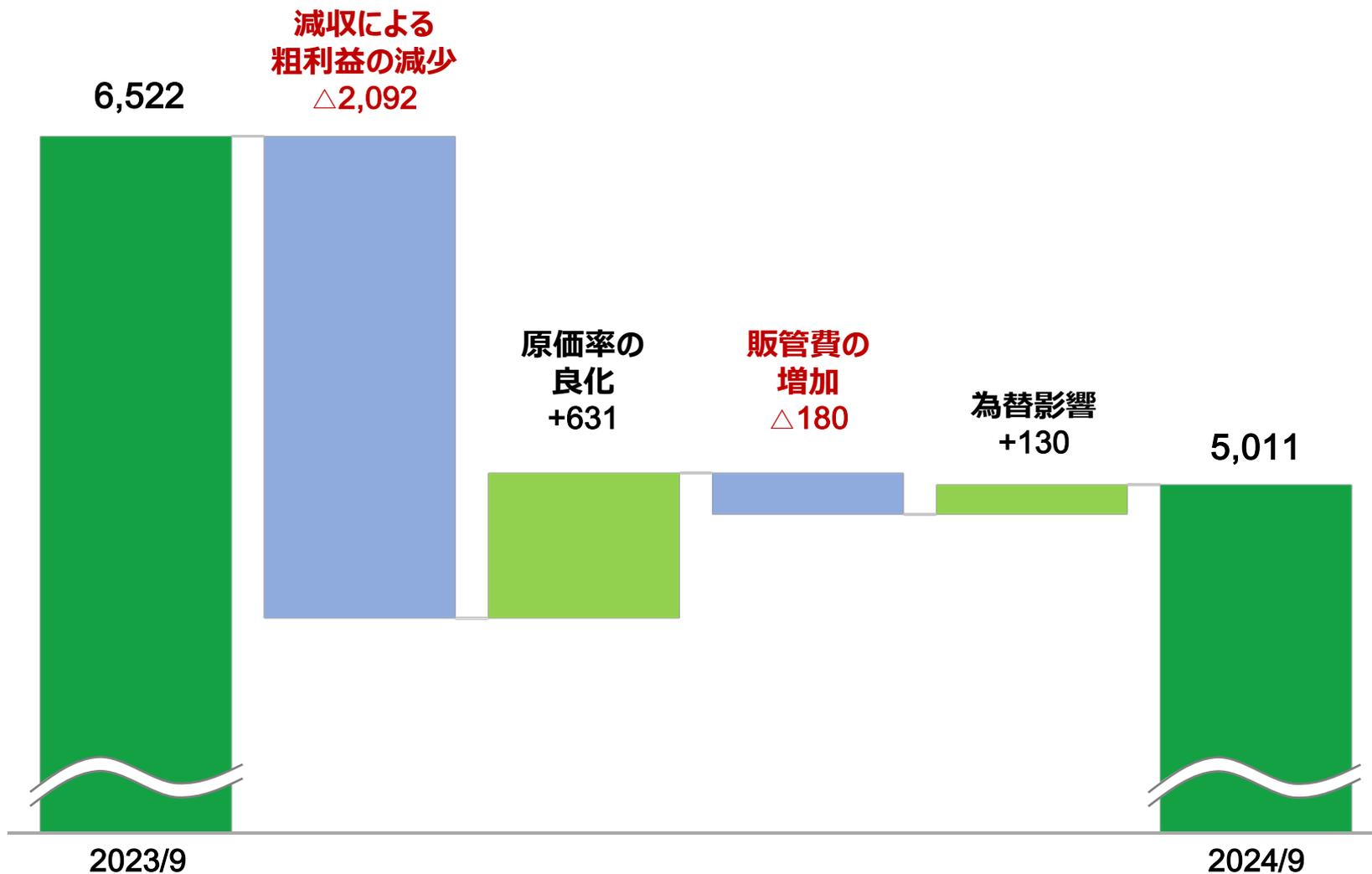
(百万円)

	2024/9		増減額	増減率
	当初予想	実績		
売上高	66,000	65,253	△746	△1.1%
営業利益	3,800	5,011	+1,211	+31.9%
営業利益率	5.8%	7.7%	+1.9 point	—
経常利益	3,500	4,840	+1,340	+38.3%
経常利益率	5.3%	7.4%	+2.1 point	—
親会社株主に 帰属する 中間純利益	2,400	3,327	+927	+38.6%
中間純利益率	3.6%	5.1%	+1.5 point	—

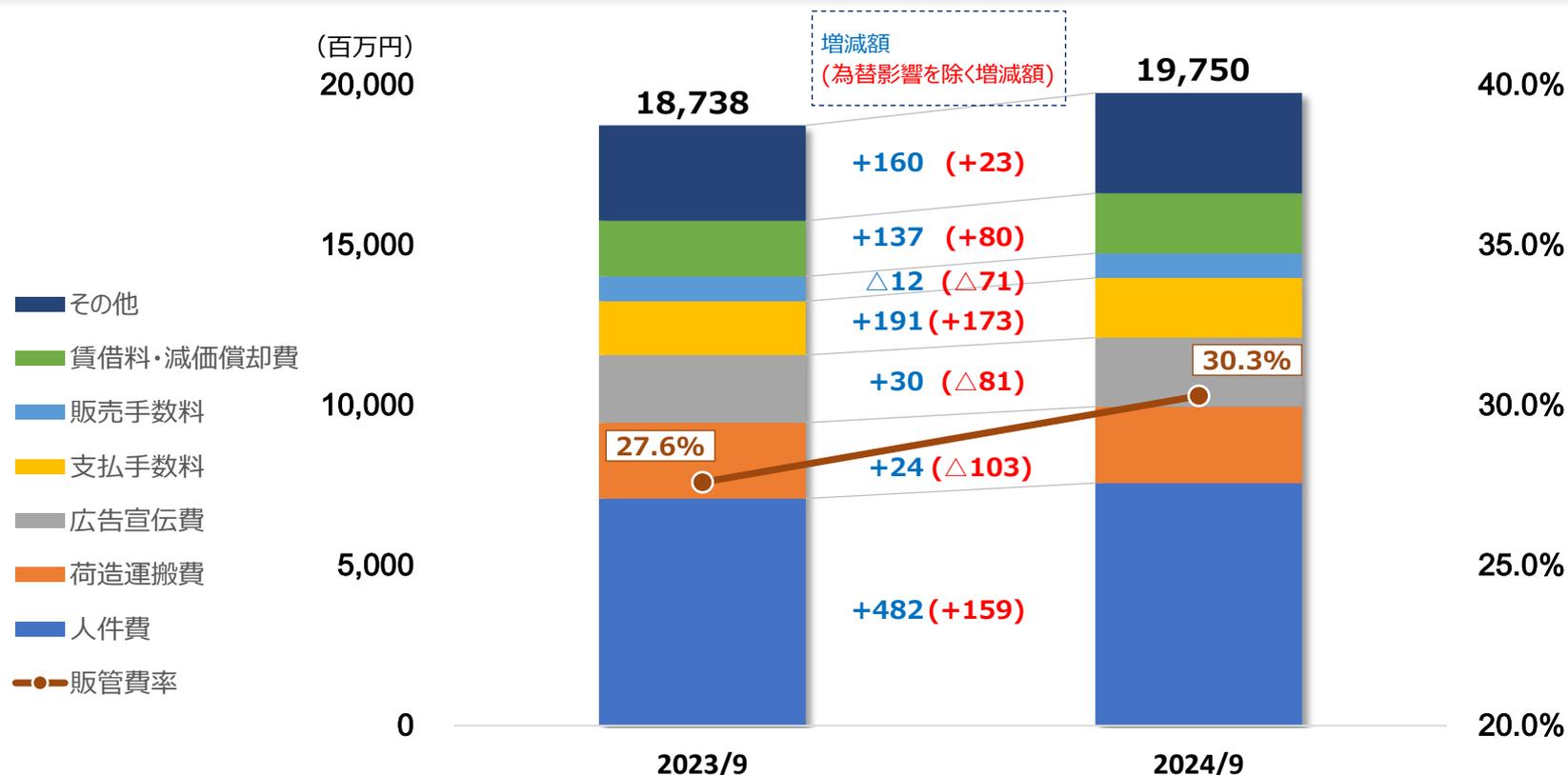
- 売上高については、消費の多様化や物価高等の影響から踊り場を迎え、予想を下回る結果となった。
- 各利益段階では、生産性向上や経費削減への取り組みの結果、予想を上回る結果となった。

営業利益の増減要因

(百万円)



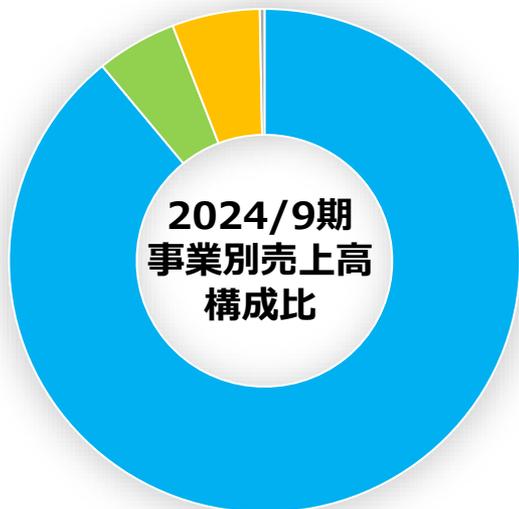
販売費及び一般管理費の内訳



- 販売費及び一般管理費は、円安による換算の影響と共に、賃金の上昇に伴う人件費の増加や情報システム関連費用の増加等により増加している。
- 物価の上昇やエネルギー価格の高騰などもあるが、世界各地域での市況の伸び悩みもあり、グループ全体として経費の支出については使うべきものと抑えるべきものの強弱を心掛けて取り組んでいる。

事業別売上高の状況

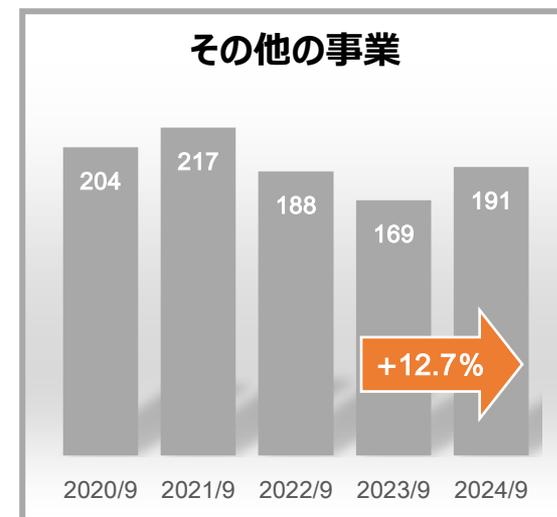
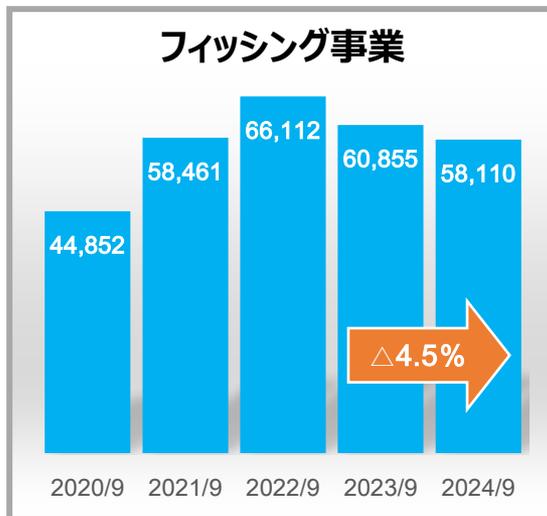
※グラフの単位はすべて百万円



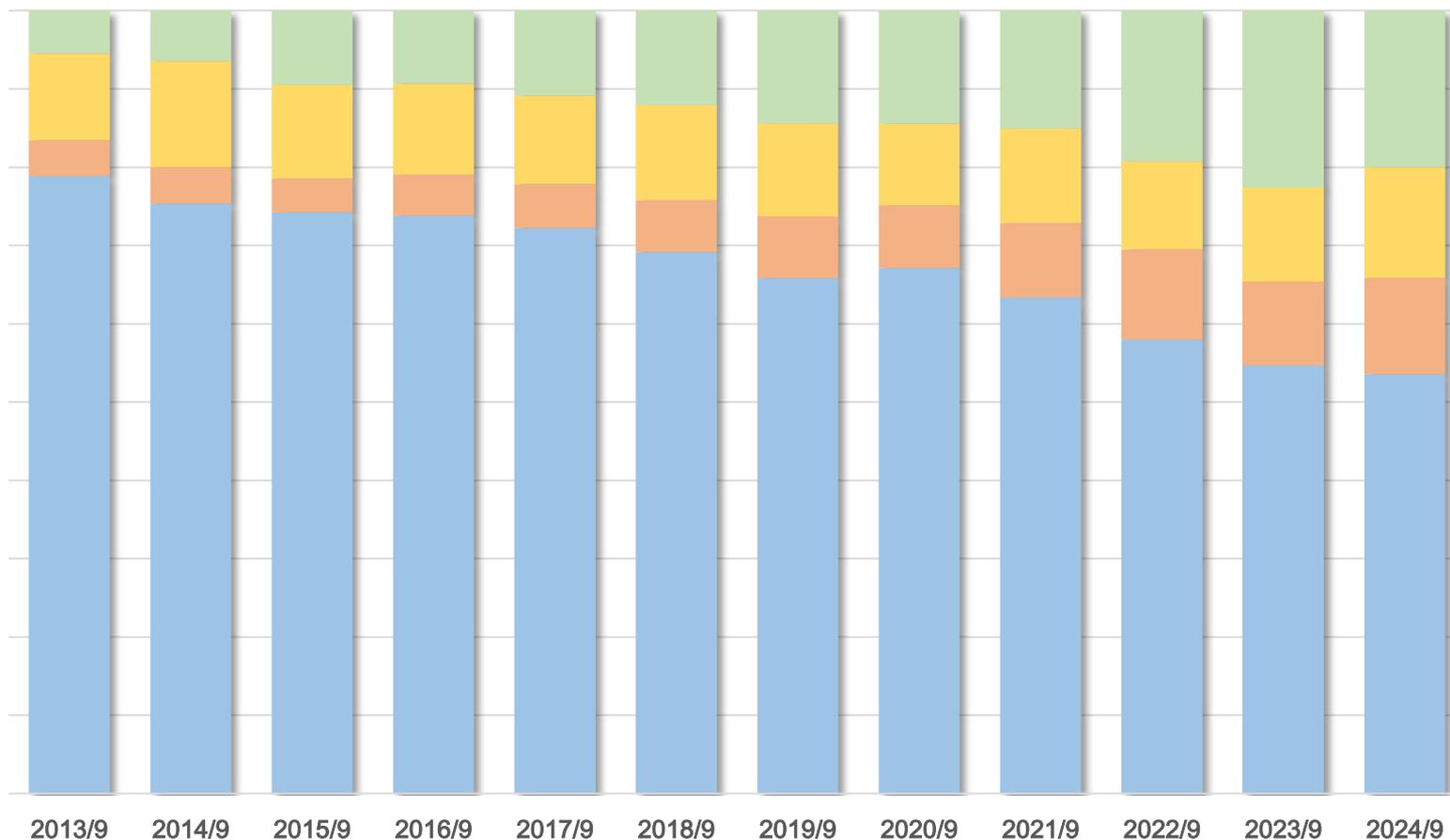
- フィッシング事業 … 89.0%
- ゴルフ事業 … 5.1%
- スポーツ事業 … 5.6%
- その他の事業 … 0.3%

【市況】

フィッシング事業は、世界各国の市況回復の足取りは重く減収となった。ゴルフ事業は国内は堅調に推移したが、海外が低迷し減収、一方でスポーツ事業は学生需要とインバウンド需要が好調に推移したこと等により、増収となった。



報告セグメント別売上比率の推移

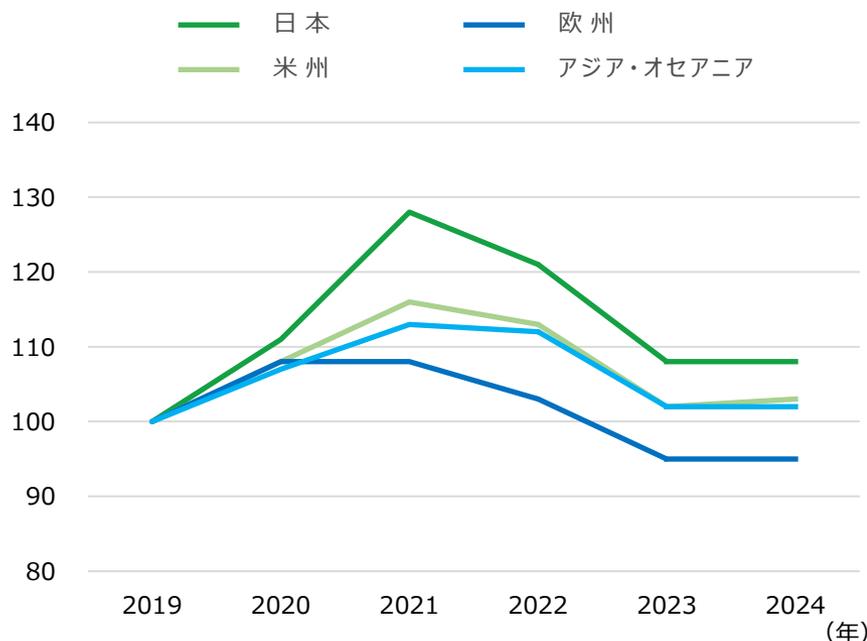


(単位：%)

日本	78.9	75.4	74.2	73.8	72.3	69.2	65.8	67.2	63.3	58.0	54.7	53.6
米州	4.5	4.6	4.3	5.3	5.6	6.6	7.9	8.0	9.5	11.5	10.8	12.3
欧州	11.1	13.6	12.0	11.6	11.3	12.1	11.9	10.4	12.1	11.2	12.0	14.1
アジア・オセアニア	5.5	6.4	9.5	9.3	10.8	12.1	14.4	14.4	15.1	19.3	22.5	20.0

世界のフィッシング市場はインフレ・金利高等の影響を受け、回復は想定よりも遅れている

フィッシング市場地域別推移



※ 各地域とも2019年の市場規模を100として指数化（引用：当社調べ）

地域別市場の状況

日本

- 市場在庫の整理は概ね落ち着いてきているが、物価高の影響を受け、高級品の需要が落ち込んでいる。市況の回復は下期と想定していたが、もう少し時間がかかる見通し

米州

- 市場の底打ち感はあるものの、インフレ・金利高で底這い状態が続いており、市況の回復の足取りは重い

欧州

- 市場在庫整理は概ね落ち着いたが、物価・エネルギー価格の高騰により経済の低迷が続き、想定よりも市場の回復速度は遅い

アジア・オセアニア

- オセアニア市場は比較的堅調ではあるが、アジア市場は中国・韓国経済の減速に伴い足下の需要は減少。市場在庫も多く、今期中は同様の厳しい状況が続く見通し

日本

【売上高】 **34,946百万円** Δ 5.9%

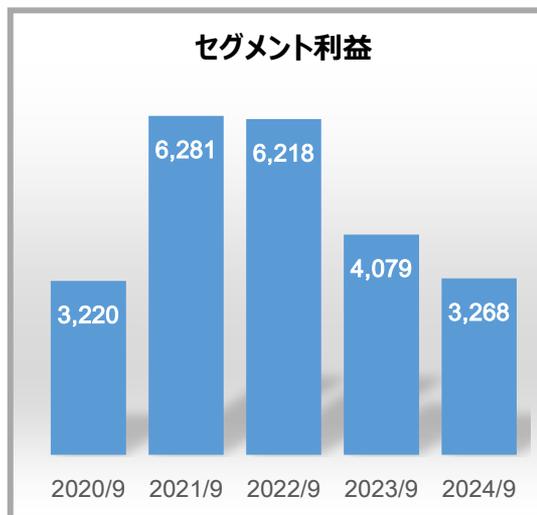
日本地域は、旅行など他のレジャーへの消費の多様化や、エネルギー価格や物価の高騰が家計を圧迫している状況からアウトドア・スポーツ・レジャーの市況は足取りの重い状況。

そのような中、フィッシングではスピニングリール「CERTATE」、ゴルフでは「ONOFF AKA」などお客様にご満足いただける新製品の投入とサービスの提供を行ってきたが、売上高は34,946百万円（前期比5.9%減）となった。

【営業利益】 **3,268百万円** Δ 19.9%

営業利益は、減収による売上総利益の減少及び人件費等経費の増加により、3,268百万円（前期比19.9%減）となった。

※グラフの単位はすべて百万円



米州

【売上高】 **8,047百万円 +10.3%**

米州は、市場在庫の調整は落ち着きつつあるが、依然高い金利水準の下、市況の回復は緩やかな状況。米国市場向けには「TATULAシリーズ」を始めとしたバスフィッシング用品を中心に販売拡大の取り組みを行った結果、売上高は8,047百万円（前期比10.3%増）となった。

【営業利益】 **159百万円 +61.8%**

営業利益は、主に売上増に伴う売上総利益の増加等により159百万円（前期比61.8%増）となった。

※グラフの単位はすべて百万円



欧州

【売上高】 9,217百万円 +12.8%

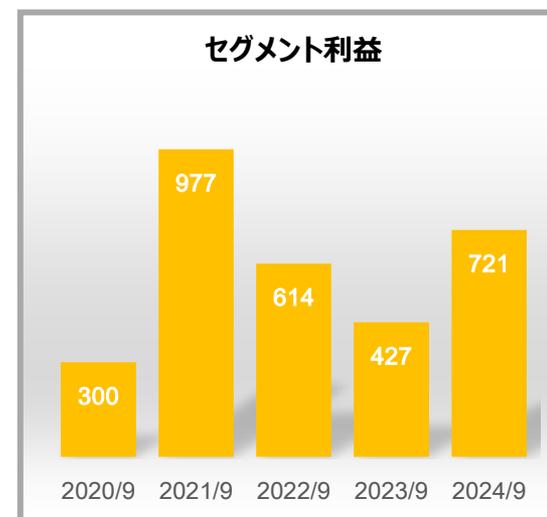
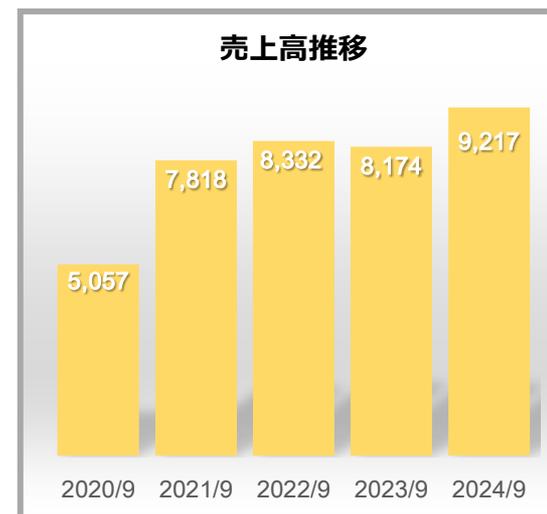
欧州は、各国金利の高止まりから、消費マインドは全体として改善ペースが弱く、市況は引き続き力強さに欠ける状況。

そのような中、引き続き各地域のニーズに合った製品の投入等を行い、また円安による換算の影響もあり、売上高は9,217百万円（前期比12.8%増）となった。

【営業利益】 721百万円 +68.6%

営業利益は、主に売上増に伴う売上総利益の増加と原価率の良化等により、721百万円（前期比68.6%増）となった。

※グラフの単位はすべて百万円



アジア・オセアニア

【売上高】 **13,041百万円** △14.6%

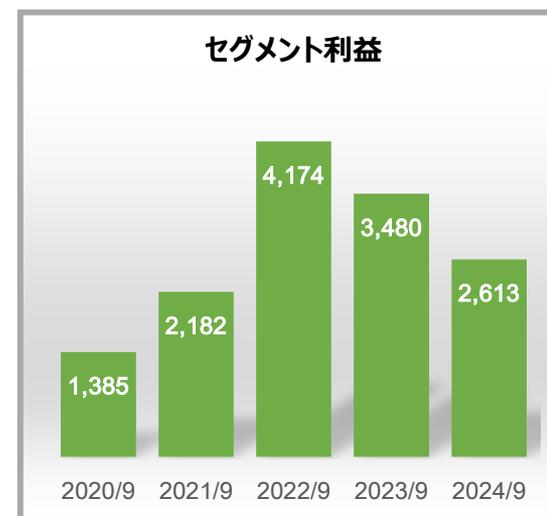
アジア・オセアニア地域の市況は、国ごとの社会経済情勢にバラつきがあるが、総じて景気は低迷しており、個人消費も低調な状況。

その中で当社は、日本製の高級品や現地専用品を中心に売上拡大に取り組んだが、売上高は13,041百万円（前期比14.6%減）となった。

【営業利益】 **2,613百万円** △24.9%

営業利益は、工場における生産性向上があったものの、中国、韓国を始めとした販売会社の減収に伴う減益により、2,613百万円（前期比24.9%減）となった。

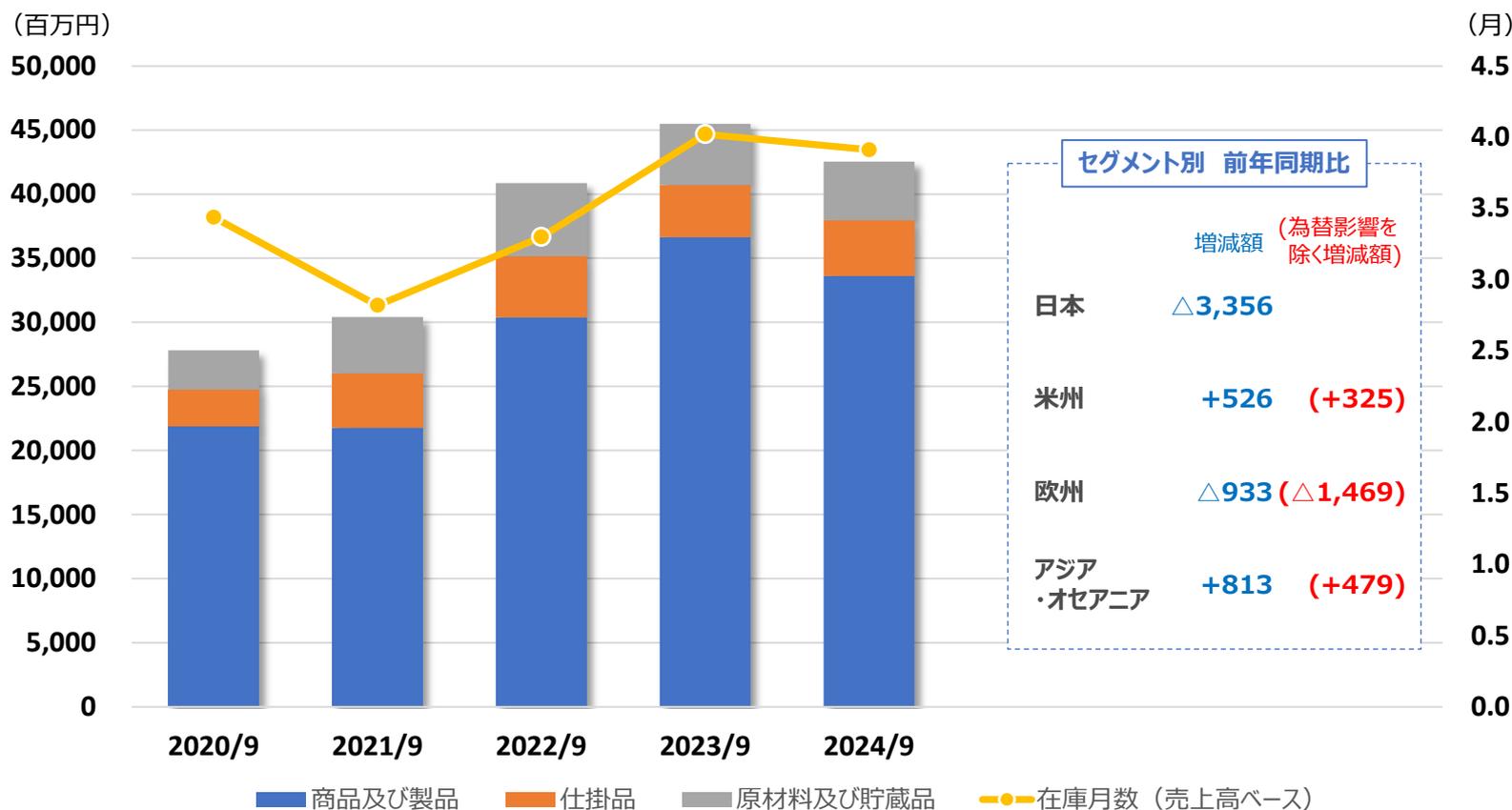
※グラフの単位はすべて百万円



■ BSの状況

(百万円)

	2024/3末	2024/9末	増減額	増減率
資産合計（総資産）	108,717	113,312	+4,595	+4.2 %
流動資産	69,110	72,864	+3,753	+5.4 %
現預金	12,979	9,505	△3,474	△26.8 %
棚卸資産	38,653	42,539	+3,885	+10.1 %
固定資産	39,606	40,448	+841	+2.1 %
負債合計	54,229	51,709	△2,519	△4.6 %
流動負債	33,651	29,896	△3,755	△11.2 %
短期借入金	12,682	13,118	+436	+3.4 %
固定負債	20,577	21,813	+1,235	+6.0 %
長期借入金	11,645	12,758	+1,112	+9.6 %
純資産	54,488	61,603	+7,114	+13.1 %
自己資本比率	49.9%	54.1%	+4.2 point	—

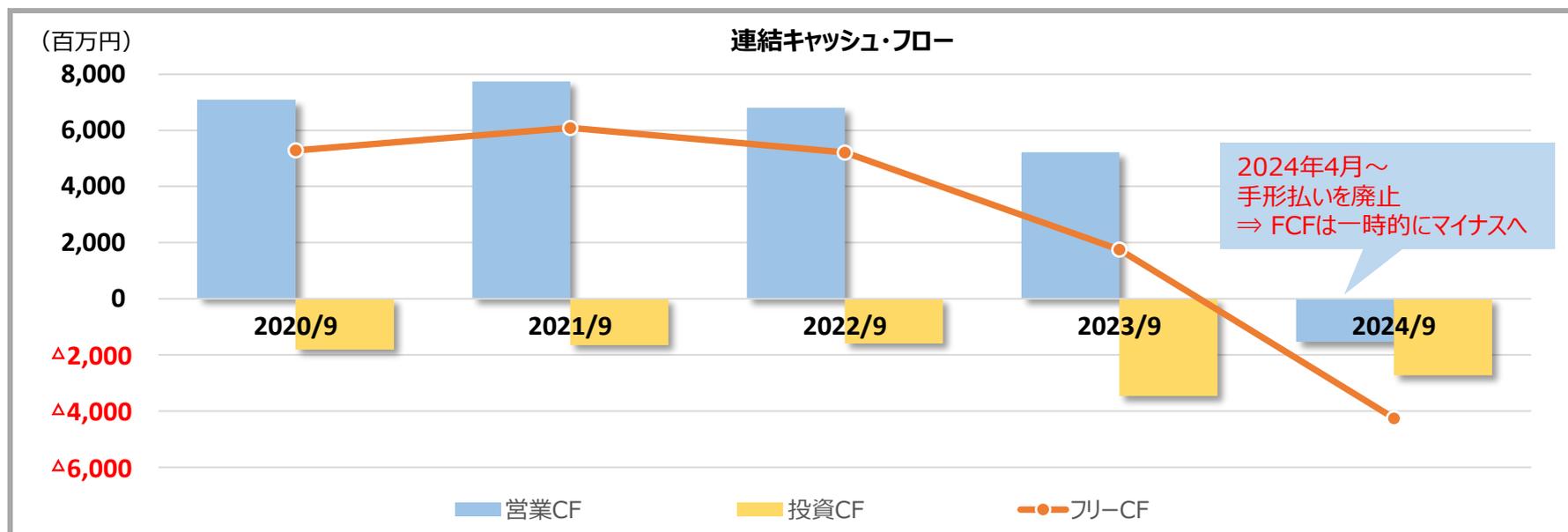


- 当社グループの在庫は、2024/3期において在庫水準を適正化するための取り組みを行い、概ね適正な水準となった。2024/9期は前年同期比で減少し、また期中としては適正な水準で推移している。

■ CF（キャッシュ・フロー）の状況

(百万円)

	2023/9	2024/9	増減額	増減率
営業活動CF	5,218	△1,533	△6,752	—
投資活動CF	△3,465	△2,725	739	—
財務活動CF	△5,621	213	5,834	—
現金及び現金同等物の期末残高	8,280	8,486	206	+2.5 %
FCF（フリーキャッシュ・フロー）	1,753	△4,259	△6,012	—



(百万円)

	2024/3期 (実績)	2025/3期 (予想)	増減額	増減率
売上高	126,008	127,000	+991	+0.8 %
営業利益	7,496	5,500	△1,996	△26.6 %
営業利益率	5.9%	4.3%	△1.6 point	—
経常利益	8,375	5,100	△3,275	△39.1 %
経常利益率	6.6%	4.0%	△2.6 point	—
当期純利益	5,582	3,400	△2,182	△39.1 %
当期純利益率	4.4%	2.7%	△1.8 point	—

- 国内外の経済は活動が正常化してきたが、欧米各国での依然として高い金利水準や物価高、中東情勢等の地政学的リスク、中国経済の景気減速等、引き続き先行き不透明な状況。
- 通期予想については市場の回復は地域ごとにバラつきがあると見込まれ、アジアなど粗利率の高い地域の売上は依然厳しさが残る見込みであり、また、賃金上昇に伴う人件費や物流費、IT関連費用の増加など販売費及び一般管理費等の増加が見込まれることもあり、当初計画を据え置きとした。

2025年3月期も前年比10円増配を計画（実質14期連続増配予定） 配当性向30%以上を目標に今後も安定した増配を目指す

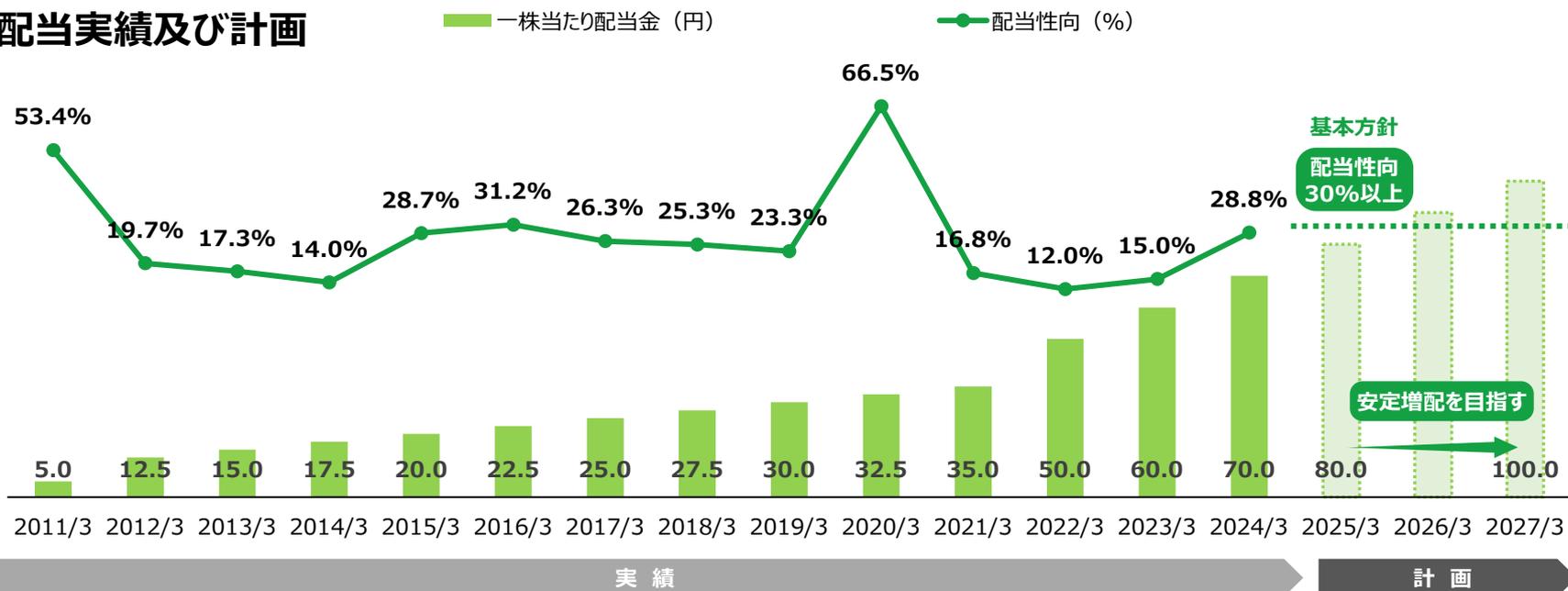
資本政策
基本方針

ROE12%以上をターゲットとし、
最適な資本構成を継続的に確認

株主還元
基本方針

配当性向30%以上を目標に、
安定的かつ継続的な増配を実施

配当実績及び計画



注：2015年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合、2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。過去の配当金は遡及修正後の数値

トピックス

グローブライドは2024年11月1日にサステナビリティ報告書「SUSTAINABILITY REPORT 2024」を発行しました。本報告書はグローブライドにおける事業活動や持続可能（サステナブル）な成長に向けた取り組み、社会への貢献をまとめたもので、社内外のコミュニケーションを通じてこれらの取り組みを推進することを目的として作成しています。



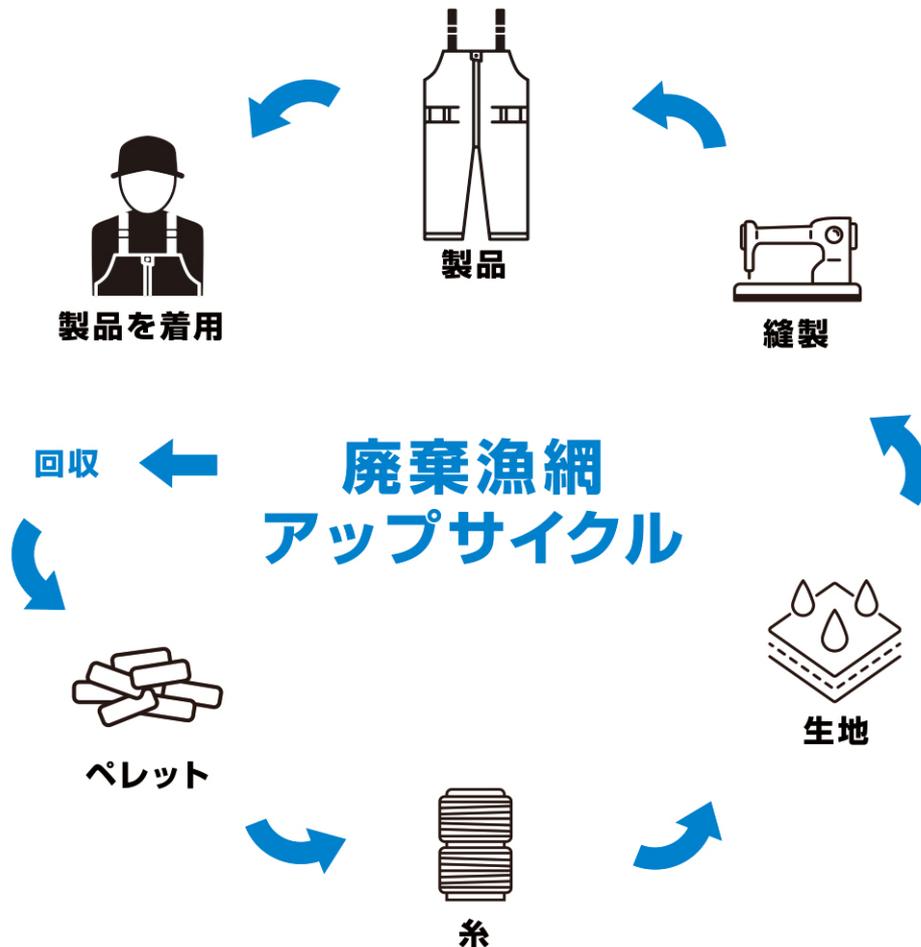
<詳細はこちらから>



<https://www.globberide.co.jp/sustainability/report/>

未来へ美しい地球環境を残すために

—漁網アップサイクルプロジェクト—



文化学園大学との共同プロジェクト 優秀作品はD-VECの商品として製品化

廃棄物であった漁網を再生し新たな付加価値を与える「BE EARTH-FRIENDLY -漁網アップサイクルプロジェクト-」は、これまで積極的に活動を展開してきました。

その中で、産学連携プロジェクトの一環として行われているのが、文化学園大学の専門科目「Collection Work II」とのコラボレーション「BE EARTH-FRIENDLY × COLLECTION WORK HRD PROJECT」です。

この科目は、同校の服装学部ファッションクリエイション学科3年生を対象とするもので、チームに分かれた学生たちは、環境やジェンダーなどさまざまな社会課題への理解を深めながら作品のテーマやコンセプトを検討。DAIWAが提供したリサイクル素材を用いて、新たな付加価値を持つファッションアイテムの創造を目指します。

ファッション業界で活躍することを目指す学生たちにとってうれしいのは、審査の結果優秀な作品はグローブライドのアプリレルブランド「D-VEC（ディーベック）」の製品として実際に販売されることです。DAIWAは、こうしてファッション業界の未来を担う学生と連携することで、ファッション業界を取り巻くネガティブな環境問題をはじめとする諸問題を、ポジティブな視点へと変換していく努力を続けています。

<詳細はこちらから>



<https://www.daiwa.com/jp/be-earth/gyomo/bunka>



ABOUT
D.Y.F.Cとは

小学生から中学生までのお子さまであればいつでも入会可能な子どもたちのための釣りクラブです。

釣りを通して自然と一体になる喜び、心躍る瞬間を子供たちへ伝えていきます。

**D.Y.F.Cはスタートから間もなく50年。
子どもたちの人生で最も感性豊かなときに、かけがえのない体験を。
そんな思いから、ダイワヤングフィッシングクラブは1976年に発足しました。**

当時の会員の方々も、いまでは親世代。

これまで多くの方に支持され、活動を続けてまいりました。

「地球を感じ、いのちと出会い、のびのび育つ。」を合言葉に、子ども一人ひとりのコミュニケーションを深め、自然とふれ合い、いのちの尊さを知り、釣りの楽しさを体感できるよう、貴重な時間を提供し続けてきました。

単に、釣りのスキルアップを図るのではなく、「自分で考え、自分で工夫し、自分で動く」、学校では学ぶことのない自然との対話を大切に、D.Y.F.Cは活動を続けて参ります。



<D.Y.F.C詳細はこちらから>

<D.Y.F.C入会はこちらから>



<https://www.daiwa-product.com/dyfc>

米国で爆発的に流行している新スポーツ「ピックルボール」の日本国内市場へ参入

PICKLEBALL

GLOBERIDE

A Lifetime Sports Company

「ピックルボール」は、テニス、卓球、バドミントンの要素を融合したラケットスポーツであり、手軽に始められるところと老若男女が楽しめるスポーツとして、米国では近年、急速に広まっています。その人気は、メディアなどでも話題になり始め日本国内でも急激な市場拡大が期待されています。米国ピックルボールブランド「DIADEM SPORTS」は、2021年より米国内でピックルボール商品の販売を開始し、短期間で確固たる地位を確立したブランドです。グローブライドは、全国のショップ、スポーツクラブ、オンラインショップにてDIADEM SPORTS商品の販売を順次開始します。これにより、ピックルボールの普及促進に貢献し、新たなスポーツ文化の創造を目指してまいります。



<詳細はこちらから>



<https://diademsports.jp/pickleball/>

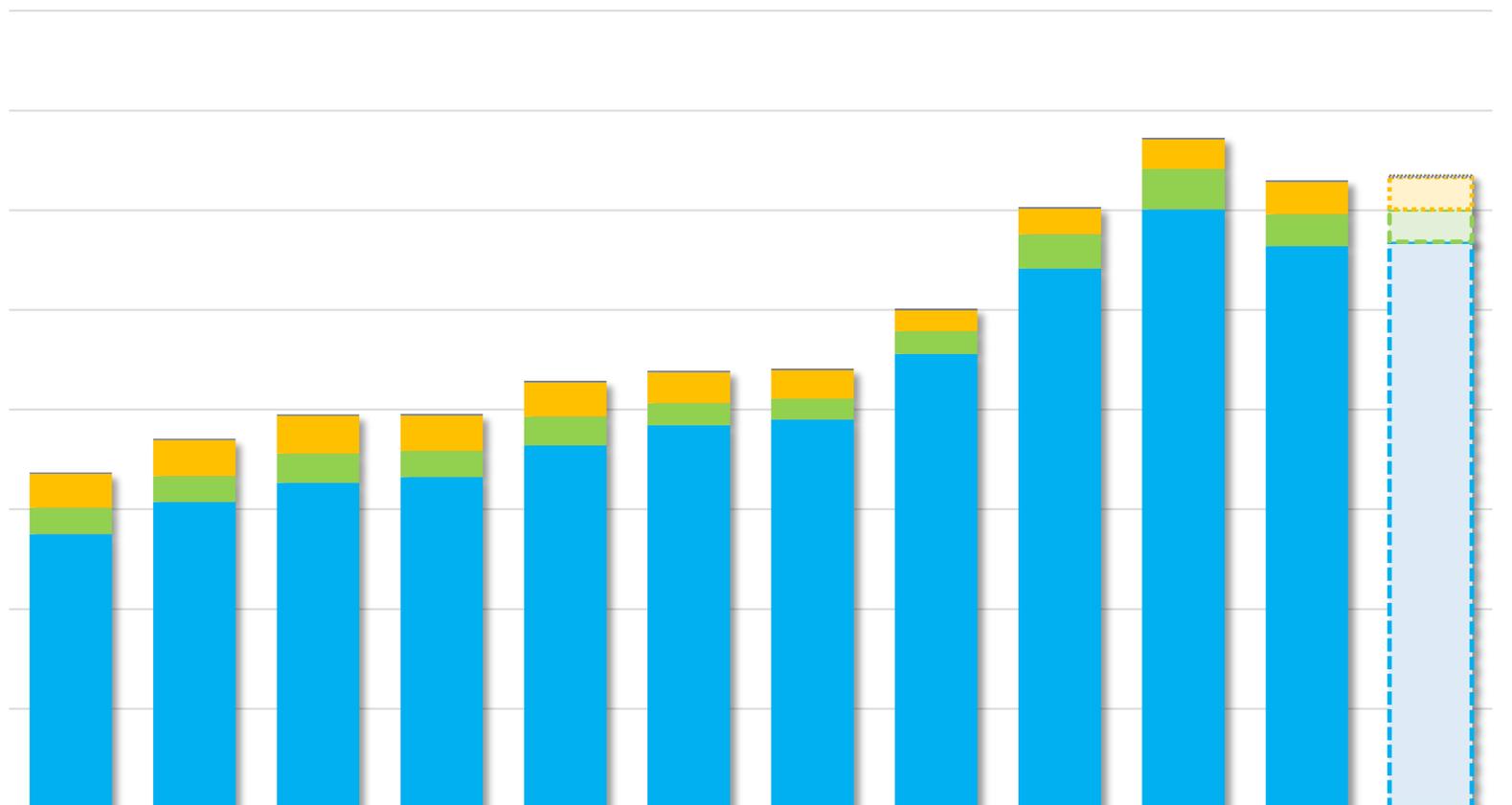


ご清聴ありがとうございました。



ご参考①：長期業績データ

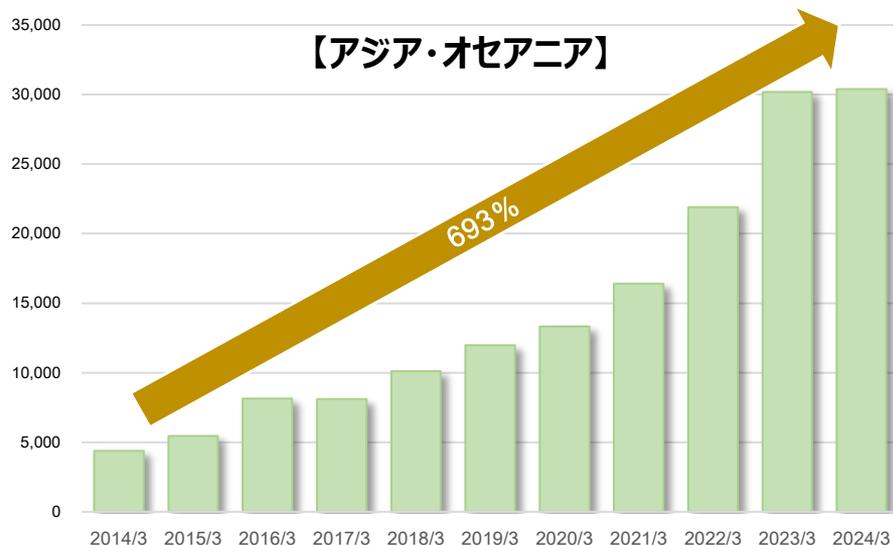
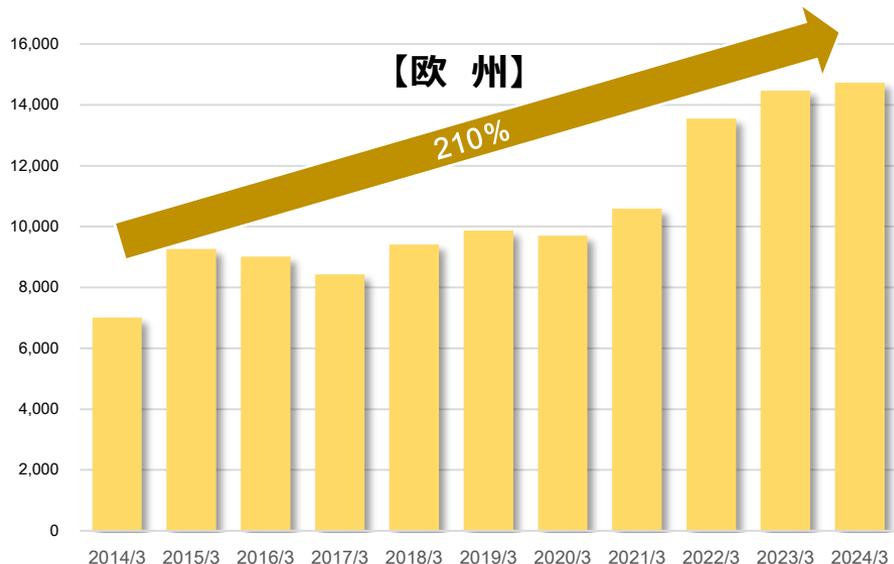
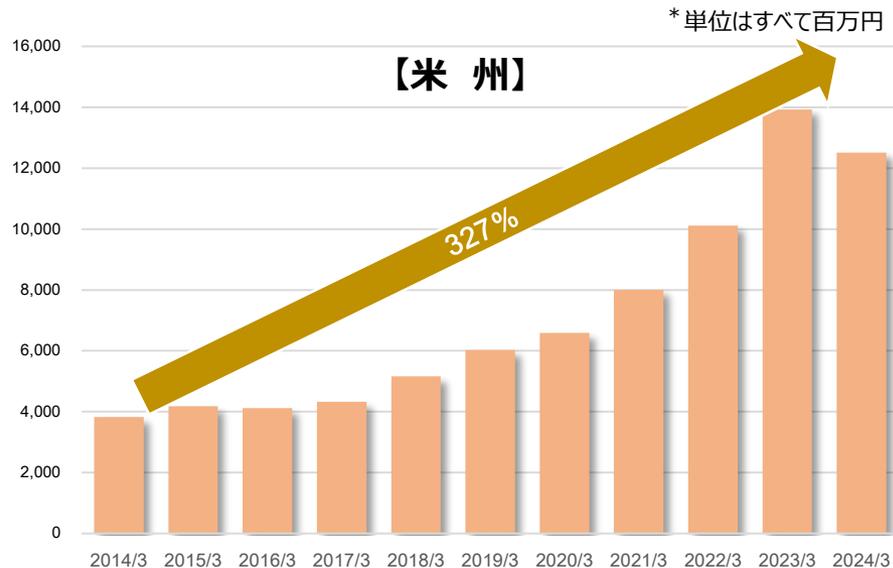
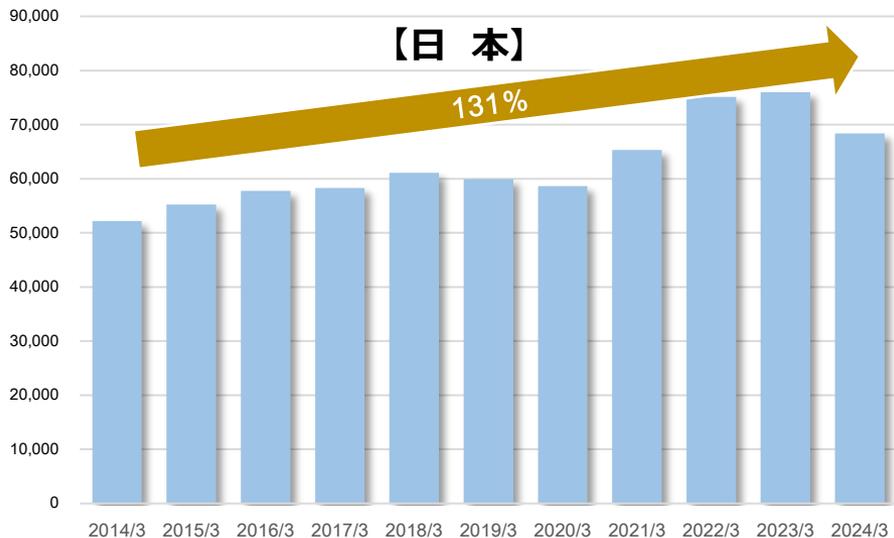
事業別売上高の推移



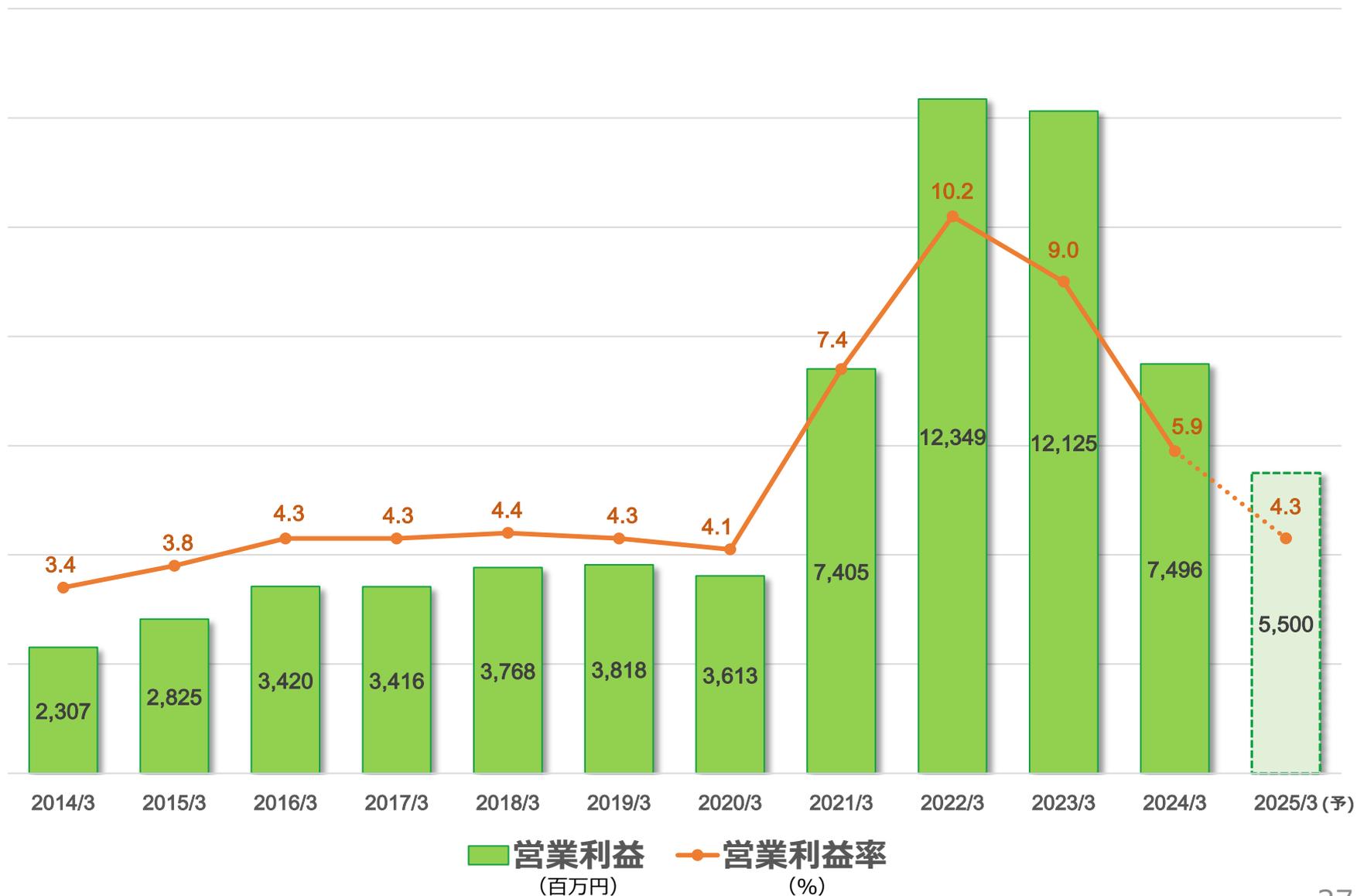
(百万円)

	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3(予)
■ フィッシング事業	55,012	61,473	65,318	66,461	72,824	76,827	78,031	91,150	108,281	120,152	112,799	113,700
■ ゴルフ事業	5,293	5,210	5,852	5,247	5,760	4,471	4,176	4,576	6,886	8,138	6,421	6,450
■ スポーツ事業	6,763	7,191	7,556	7,108	6,845	6,169	5,683	4,184	5,109	5,911	6,429	6,500
■ その他の事業	314	278	298	324	355	343	366	392	406	380	358	350
合計	67,383	74,153	79,026	79,142	85,785	87,811	88,258	100,304	120,684	134,583	126,008	127,000

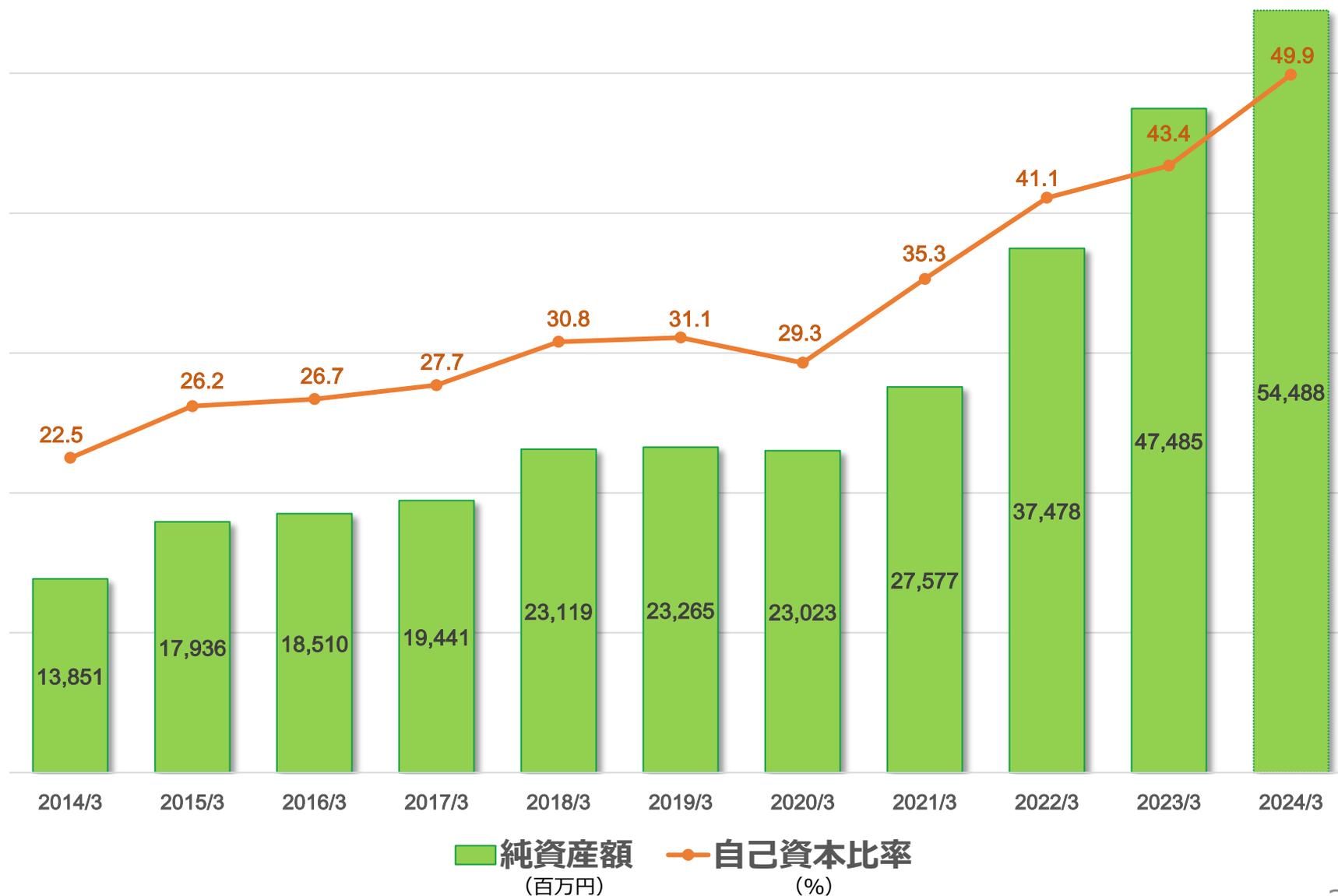
セグメント別（地域別）売上高の推移



営業利益・営業利益率の推移



純資産・自己資本比率の推移



ご参考②：基礎情報

[SLOGAN]

Feel the earth.

[VISION]

A Lifetime Sports Company

地球を感じ、生きていく。

感じよう。

日常の中で地球を。

それは、新しい遊び、新しい生き方。

これからの豊かさが、そこにあります。

人生を豊かにするスポーツ。

日常の中で地球を感じる、新しい遊び、新しい生き方。

私たちはスポーツの新しい地平を開きます。

すべての人が人生をいつまでも爽快な感動で満たす、

これからの豊かさをつくっていきます。

世界のライフタイム・スポーツ・カンパニーへ

社名 グローブライド株式会社 (GLOBERIDE, Inc.)

本社 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

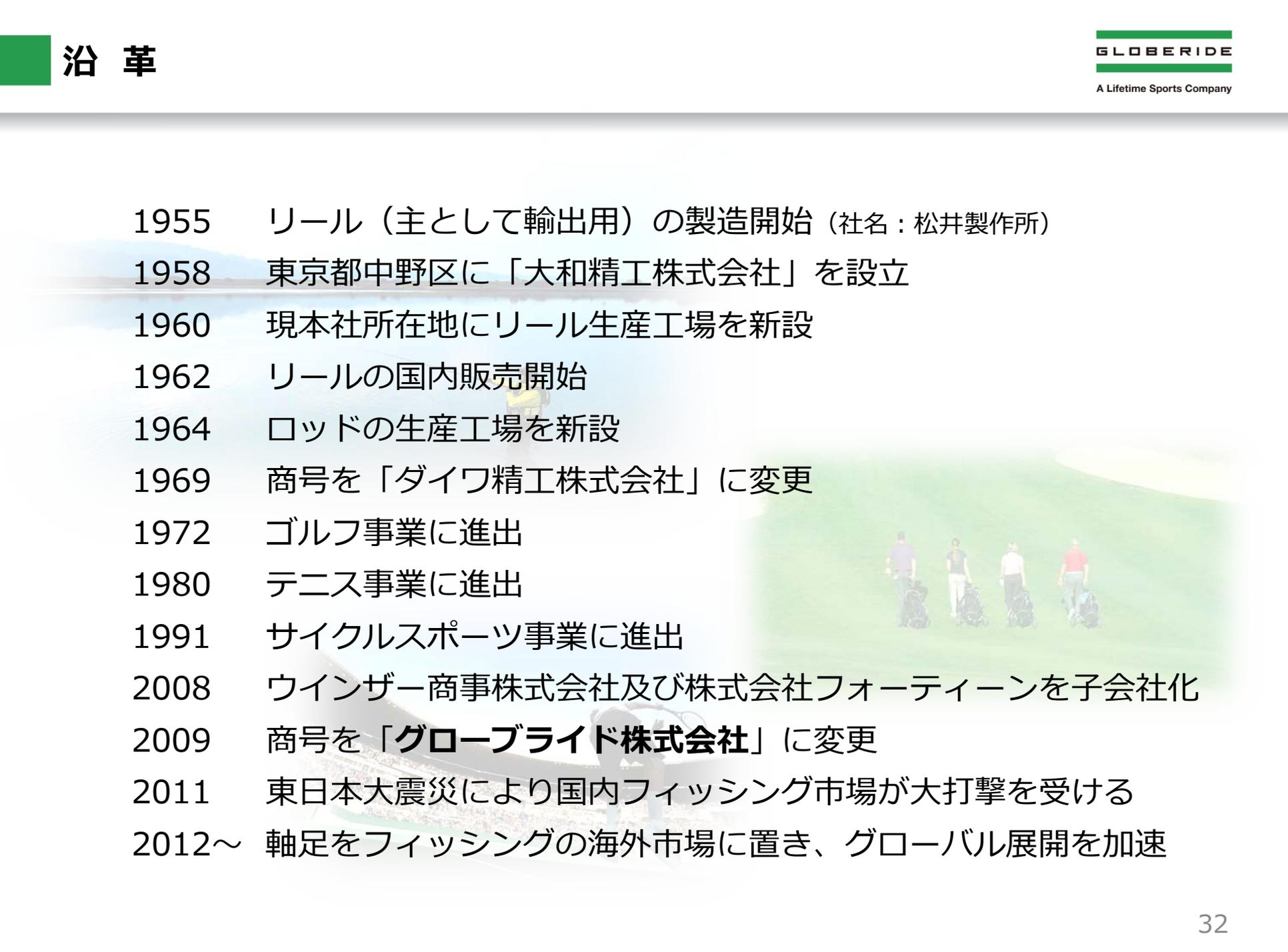
設立 1958年7月29日 ※登記上は1945年12月26日

代表者 代表取締役社長執行役員 鈴木 一成

資本金 41億8,411万円 <2024年9月末>

従業員数 連結 6,885名 / 個別 875名 <2024年9月末>

関係会社 国内 8社 / 海外21社

- 
- 1955 リール（主として輸出用）の製造開始（社名：松井製作所）
 - 1958 東京都中野区に「大和精工株式会社」を設立
 - 1960 現本社所在地にリール生産工場を新設
 - 1962 リールの国内販売開始
 - 1964 ロッドの生産工場を新設
 - 1969 商号を「ダイワ精工株式会社」に変更
 - 1972 ゴルフ事業に進出
 - 1980 テニス事業に進出
 - 1991 サイクルスポーツ事業に進出
 - 2008 ウィンザー商事株式会社及び株式会社フォーティーンを子会社化
 - 2009 商号を「**グローブライド株式会社**」に変更
 - 2011 東日本大震災により国内フィッシング市場が大打撃を受ける
 - 2012～ 軸足をフィッシングの海外市場に置き、グローバル展開を加速

【免責事項】

※本資料に記載している予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。